



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/1 (月)	▲ 500	▲ 33,400	▲ 33,900	国債発行償還 (2年) 国庫短期証券発行償還 (3M)	成長機盤 ▲2,500 社債等買入 ▲100 国債補充供給 1300		日：植田日銀総裁、名古屋市での金融経済懇談会で講演 米：ISM製造業景況指数 (11月) 欧：ユーロ圏製造業PMI (11月)
12/2 (火)	トン	▲ 40,000	▲ 40,000				欧：ユーロ圏失業率 (10月) ：ユーロ圏CPI (11月)
12/3 (水)	トン	▲ 80,000	▲ 80,000	国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険税揚げ			米：ADP雇用統計 (11月) ：ISM非製造業総合景況指数 (11月) 欧：ユーロ圏サービス業・総合PMI (11月) ：ユーロ圏PPI (10月)
12/4 (木)	トン	▲ 2,500	▲ 2,500				
12/5 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (30年)			日：コール市場残高 (11月) 米：個人消費支出 (PCE) 価格指数 (9月) 欧：ユーロ圏GDP (3Q)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,000億円減少し、489兆5,000億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し、28日は487兆500億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.478%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.471%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.545%～0.700%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では12月1日に植田日銀総裁が名古屋市での金融経済懇談会で講演、海外では3日にユーロ圏サービス業・総合PMIの公表、5日に米個人消費支出（PCE）価格指数（9月）、ユーロ圏GDP（3Q）の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.57 ～ 0.64
2M	0.58 ～ 0.69
3M	0.64 ～ 0.75
6M	0.75 ～ 0.90

＜レボ＞

足許GCは週を通して+0.495%～+0.505%の狭いレンジで取引された。月末を跨ぐ取引となる27日も水準に変化は見られず、短国の発行があった28日には+0.50%を上回る取引が中心となった。

SC取引は、10年379回債は27日の取引で前場0.25%下回る水準で取引が見られた。他2年470～477回債、5年155～181回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60 ～ 0.75

＜CP＞

今週の入札発行総額は約3兆825億円で、週間償還額の2兆2,425億円を大幅に上回った。発行残高は、先週末時点の24兆9,398億円から、11月27日時点で25兆3,259億円へと増加した。発行市場では、月末の大量発行があり、食料品・機械・不動産業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約6,700億円となっている。発行市場は、事業法人の賞与支払いに向けたCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、12月の金融政策決定会合を超える案件では、日銀の政策修正への警戒感から 引き続きレート水準を探る展開が見込まれるであろう。

＜TDB＞

28日の3M（1347回債）の入札は、最高落札利回り0.5576%（前回債0.4879%）、平均落札利回り0.5187%（前回債0.4766%）となった。

来週の入札は12月5日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。